

## 報告 Report

## 旧本庄仲町郵便局リノベーションプロジェクト

原稿受付 2023年9月1日

ものづくり大学紀要 第13号 (2023) 65~70

岡田公彦\*1, 須田修二\*2, 小杉拓海\*3

\*1 ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科

\*2 須田修二級建築事務所, ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 非常勤講師

\*3 ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 卒業生

キーワード: 建築設計, インテリアデザイン, 歴史的建築物利活用, 改修, 街づくり

## 1. はじめに

埼玉県本庄市にある本庄仲町郵便局は昭和9年(1934年)に建築された。木造2階建て、外観をタイル張りにした局舎は国登録有形文化財に指定されており、昭和初期の景観をとどめている貴重な文化財である。しかし、2019年に移転した後空き家となっており、利活用の検討がなされていた。今回、本庄市で日本伝統着物を生地として使用する帽子ブランド「ワンダーファブリック(W@nderFabric)」という会社が使用することになった。

本計画では、旧郵便局を工房兼店舗としてリノベーションを行い、新たに帽子を展示する棚を設計し、制作した。その中で、ブランドの理念に沿った日本の伝統的な文化と現代的な掛け合わせした展示棚の設計をし、日本建築の庇の形状を参照した展示棚を制作する。また、本庄の持つ歴史と現代とをつなぐ架け橋の一環として、街づくりの要素も併せ持つ計画である。



図1 旧本庄仲町郵便局 外観 (中央)

## 2. 周辺敷地及び敷地概要

- ・住所：埼玉県本庄市中央 1-8-2
- ・建築床面積：158 m<sup>2</sup>

敷地は本庄駅から北側に徒歩 10 分、旧中山道沿いの場所に位置し、宿場町として栄えていた中心部にある。近年は本庄早稻田駅に新幹線が開通した為、本庄駅の南部は都市開発が進んでいる一方、北部はシャッターが閉まっている店舗が多く、過疎化が進んでいる。

## 3. コンセプト

ワンダーファブリックは古くなった着物をアップサイクルし、帽子として新たな価値を創造する企業である。このコンセプトをインテリアデザインにも同調させ、廃材を活用した棚を設計、制作する。廃材はものづくり大学の授業で制作した後、廃棄されていた垂木材を利用する。また、日本各地の伝統的な着物を利用する企業であるため、棚のデザインにも日本の伝統的な工法による軒先の要素を取り入れつつ、そのディテールや素材感から現代的な表現も合わせ持つものとする。上記のコンセプトにより、過去と未来、歴史をつなぐ計画となることを目指した。

## 4. 設計概要

### 4.1 製造ラインの確保、内部空間について

帽子製造過程で重要なのが作業効率であり、動線計画が重要になる。その上で展示される帽子との関係性が見えるように配置を考えていく。ストック庫を北東の場所に配置し、ストック庫からミシンの間に裁断機、テーブルを配置する。ミシンはカウンターテーブル沿いに配置する。動線を一方通行にし、作業範囲を最大限短くすることで生産スピードを上げることを目指している。また、ロビーからは製造ラインを見ながら展示している帽子も見ることができ、ミシン・帽子・制作する人すべてが一つのまとまりを持った風景として表出される空間を作り上げている。

内部デザインについては、壁を白く塗装して既存のインテリアが持つ凹凸のみが表れる抽象的な空間をつくり、近代的な看板建築の外観との対比を図る。（図 2）

### 4.2 棚のデザインについて

棚は、間柱から片持ちで支えられる垂木及び下地材である合板、及び上面の仕上げ材としてガルバリウム鋼板素地仕上げを用いる。高さの高い棚でも商品が見やすいことと、視点による見え方の変化をつけるため棚の角度を変化させている。伝統文化である着物を用いた製品と日本建築の特徴である軒先が連なる風景が融合した展示棚とすることで、新旧の対比と融合、多様さと同一性・反復性を併せ持つデザインとした。（図 3）



## 5. 竣工後の様子



図4 竣工後、展示物や制作機械がない状態での全景. 手前にトップライト

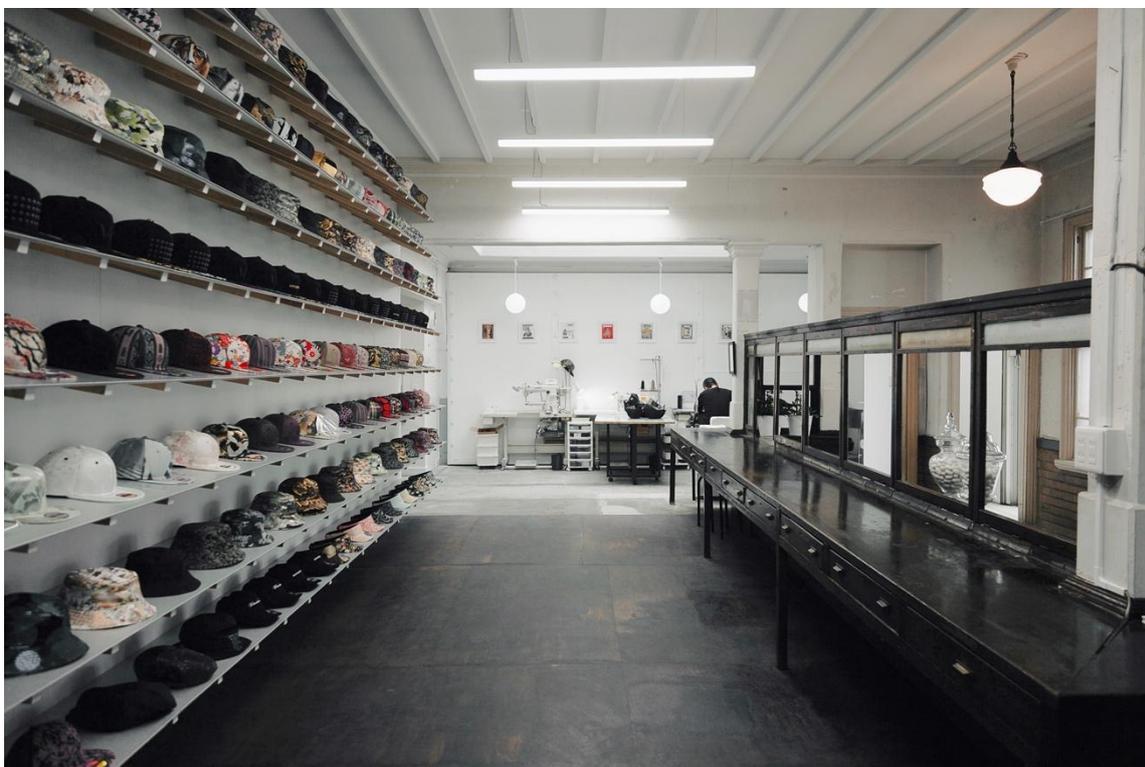


図5 西側より東側を見る. 右手に郵便局の受付であった既存カウンター



図6 東側より西側を見る. 右手に帽子の展示棚. 奥に既存金庫



図7 展示棚と商品の詳細  
(垂木に支えられた軒が連なる光景. 帽子は軒下で守られるように展示される)



図8 作業場全景. 各種マシンや作業台が見える

## 6. まとめ

元々街の中心部にあり、住民の集まる場所であった郵便局が閉鎖し賑わいを無くしていたところであったが、このプロジェクトにより歴史的な建物が再生され、生きを取り戻すこととなった。旧郵便局の裏には運営をしていた旧諸井家住宅が現存しており、そちらは県指定の文化財となっている。旧諸井家は耐震上の問題により内見不可となっているが、耐震補強が検討されており、早期の改修による公開が望まれる。これらの建物は、中山道本庄宿の繁栄を近現代に伝える重要なものであり、街づくりの主要な核となる可能性を秘めたものである。旧仲町郵便局における、プロジェクト前に実施されていた現在の耐震補強は、とりあえず倒壊危険性を免れるための仮のものであり既存の窓が塞がれているが、こちらも今後の対応により原型に近い形に戻すことが望まれる。

今回のリノベーションにより、工房としては、裁縫を行うためトップライトにより明るく精神的にも仕事のしやすい環境が整えられた。店舗としては、地元の本庄絹をはじめ日本各地の着物を使用した多彩な商品が一望できる棚の設置により、顧客の商品選択の楽しさの向上と共に、歴史を一望できる文化的興味を喚起する効果があると考えられる。その作用は、絹の産地が中山道など街道沿いに広がっていったように、またシルクロードを通して世界に広がっていったように、それぞれの歴史的背景をもつ遺産を現代へ、世界へとつなげる契機であり道筋となるものである。